

第3回香川県ダム検証に係る検討委員会 議事要旨

日時：平成23年4月25日（月）10:00～12:10

場所：香川県社会福祉総合センター 7階 第1中会議室

【出席者】

白木委員長、石塚委員、井原委員、角道委員、工藤委員、森委員、好井委員、大西高松市長、稲垣高松市上下水道事業管理者、高口香川県土木部長、小野香川県高松土木事務所長
(大高委員欠席)

【議事概要】

○審議事項

【対象ダム：椋川ダム】

- ①「新規利水」と「流水の正常な機能の維持」の観点からの比較検討
- ② 治水も含めた総合的な評価

●審議結果

- ・「新規利水」及び「流水の正常な機能の維持」に関して現計画案以外に15案の方策を挙げ、このうち2案を代替案として選定した。現計画案と2つの代替案について、安全度、コスト、実現性、持続性、地域社会への影響、環境への影響の観点で検討した結果、椋川ダムによる現計画案が最も有効であると判断された。
- ・前回委員会で審議した「治水」の検討結果を含め総合的に評価した結果、椋川ダムを中心とする現計画案が最も有効であるとの結論を得た。

○主な意見

学識経験者

- ・天水に頼らない、海水淡水化や地下水の利用等による水源確保の多様化についても言及すべきである。
- ・渇水県である香川県としては、海水淡水化はコストが高いが、観光資源、科学教育の面から有効と考える。
- ・「環境への影響評価」で検討されたCO2排出負荷量についてはもう少し丁寧に分析してもいいのではないか。
- ・椋川ダムの渇水対策容量について宝山湖と併せて有効な運用方法を考えておいた方がよい。
- ・椋川ダムにより、水とのふれいあいの場を創出することを考えて欲しい。
- ・新規利水の観点からは、椋川ダムが最も有効であるが、渇水に対する問題点をすべて解決できるわけではないので、今後の検討課題を整理しておくべきである。
- ・東日本大震災が発生した後であるので、ダムやため池の安全性には十分配慮して欲しい。

関係地方公共団体

<高松市長>

- ・ 柵川ダムによる自己水源の確保策により利水安全度を向上することは重要であるが、「早明浦ダムの取水制限＝香川県の渇水」では、渇水頻度が変わらず、風評被害的な状況が続く恐れがあることから、渇水の定義を明確にし、情報提供のあり方についても検討していくべきである。